



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者
執行委員長 針谷 歩

2021/3/12 No.36

2021年2月22日提出 申23号 3月11日交渉開催 その2

2020年度営業施策(その3)に関する申し入れ交渉をおこなう!

2. デジタルトランスフォーメーション等により、販売業務や案内業務がシステム化されていくなかで、人しかできない温かい業務をお客さまニーズに照らし合わせ、安全で安心してご利用いただける駅の案内体制の充実を図ること。

組合: 時代の変化のスピードを認識しながら検討しなければならない。案内体制やお客さまにご利用していただき駅がどのように変わっていくのか議論しなければならない。「Beyond station 構想」など、施策が進んでしまい、どういった社員を目指せばよいのか不安になっている。そもそも「Beyond station 構想」の主導は事業なのか、営業なのか。

会社: 主幹はどちらもとなる。駅の役割が変化していく。事業の役割が増えてきている。今は役割があるが、魅力を高めるために一緒に考えていく必要があると考える。どこまで効率的に駅業務をできるか考えるために施策を進めていく。

組合: 変革2027において、駅は切符を売る場だけではないと認識している。収益が悪い時に過去はプリペイドカードのように店頭販売で売り上げがあった時代から、現在の IC カードではタッチしないと売り上げにならない時代となった。国鉄から JR への改革のような変化が急速に行われている。東労組としても、2 期連続の赤字を何としても避けなければならないと考えている。その上で「人でしか出来ない業務」を各職場で考えなくてはならない。営業だけでなく系統全てである。国鉄改革同様「JR 改革」と考える。今やらなければ未来がなく、手遅れとなってしまう。社員が判断するための情報を現場に落とししてほしい。サービス勉強会などに、支社企画が資料をもって議論する場をつくる必要がある。

会社: 情報の発信としては、Joi-tab など閲覧が出来るようになった。しかし、施策については企画部門と一緒に進めていける体制づくりが大切だと感じた。

組合: 人が減っていくことだけ前面に出るのではなく、自分たちで未来を作っていくことを伝えるべきであり、職場で議論がされていない現実である。前広に情報を出すことで、今後の目標達成に繋がっていくこととなる。「仕事がなくなってしまう」という意識を持たせるのではなく、前向きに施策を担える社員を作るべきである。今ある仕事が当たり前と思ってしまうと間違えてしまう。会社が自由に発想出来る体制を作り出そうとしていることは認識した。

ただし、将来への不安は、現状にとどまっては解消されない。問題があれば交渉させてもらう。情報を前広にいただければ、議論させていただきたい。

会社: 了解した。



**今後駅業務は大きく変わります…
が、変えてはいけないものもあります。
全組合員で議論していこう!**

